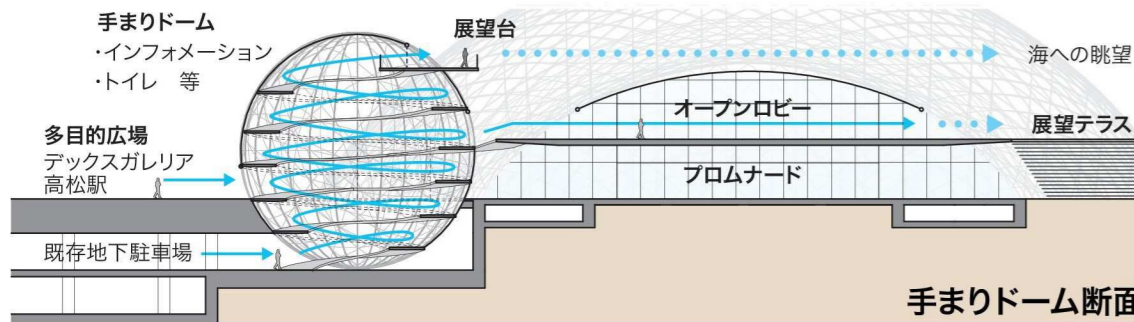
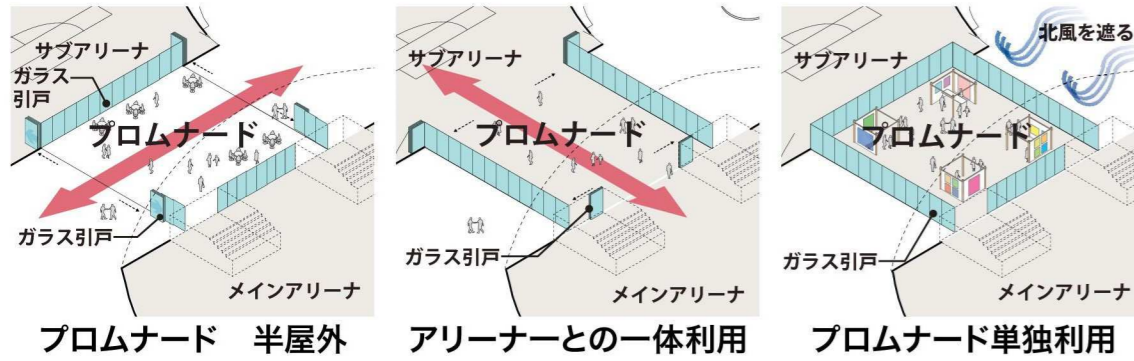


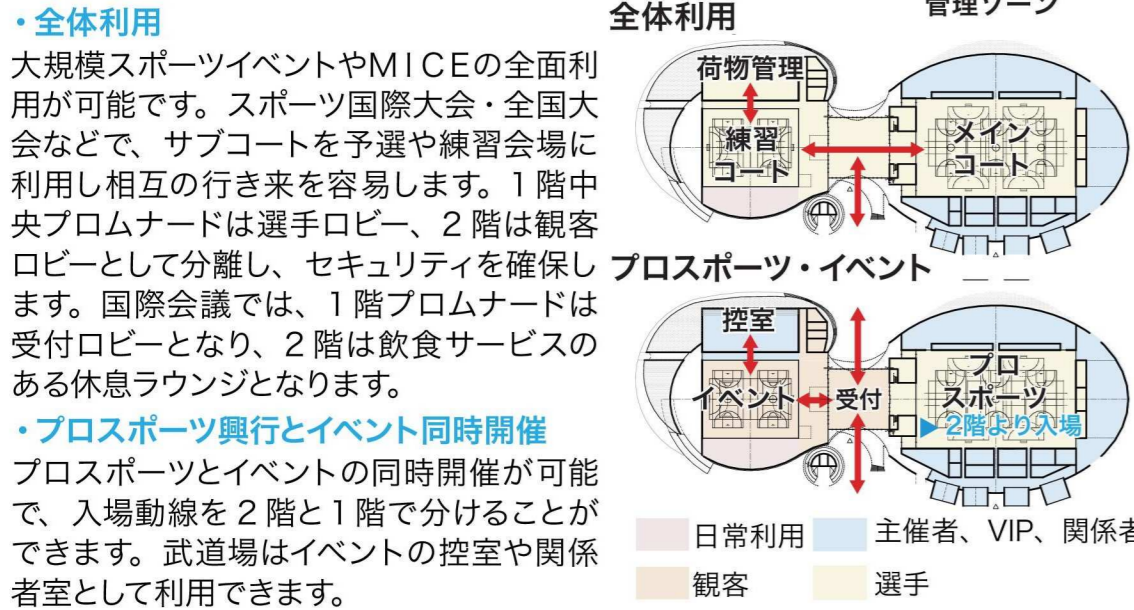
**多目的広場、地下駐車場からの人の流れの結節点となる手まりドーム**  
多目的広場に面する地下駐車場への階段およびトイレを“讀みかがり手まり”のようなドームに収めます。上下動線はスロープとなり、駅とデックスガレリアからの動線を2階オープンロビーへとつなげます。最上部には瀬戸内海が望める展望台を設けます。手まりドームはETFE膜を構成するアルミフレームにカーボンファイバーを手まりのように巻き付け、全体剛性を保ちます。



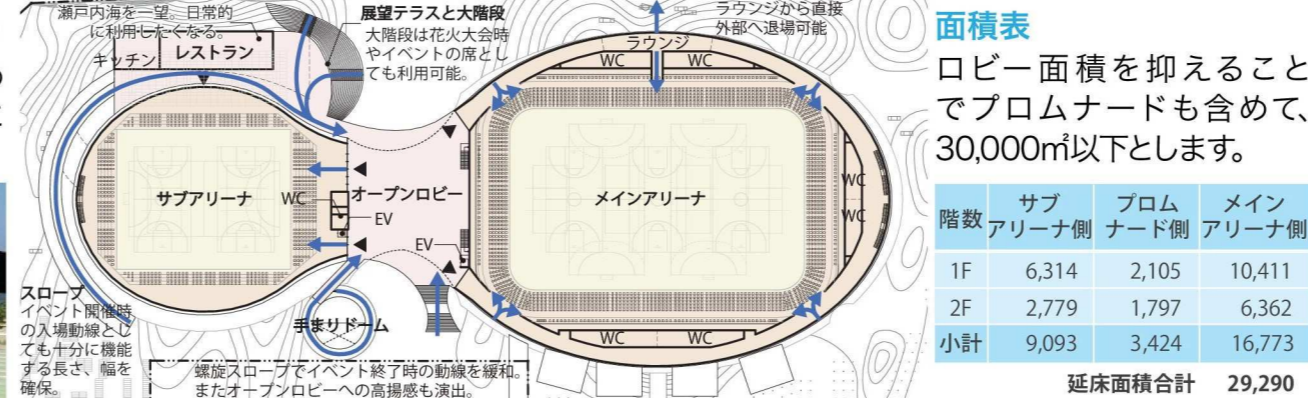
**ブロムナードを室内化する開閉可能なガラス引戸**  
ブロムナードは半屋外空間とし、また各アリーナのロビー空間を最小限に抑えることで施設管理を容易にし、空調必要空間も最小限に抑えます。日常的には現在の歩行者専用道路に代わる海への動線として運営しますが、ガラス引戸を閉め内部化する事が可能で、イベント利用できるほか冬場の北風対策にもなります。



**ブロムナードの開閉により多様な利用形態に対応**  
・分割利用 **メイン、サブアリーナ、武道場** 分割利用  
国際芸術祭、国際体育祭、花火大会などの地域イベント開催時でも、メイン、サブアリーナさらに武道場の独立した利用ができます。メインアリーナは多目的スペースからのアクセスも可能とあり、芸術祭などの開けたイベントにも利用できます。



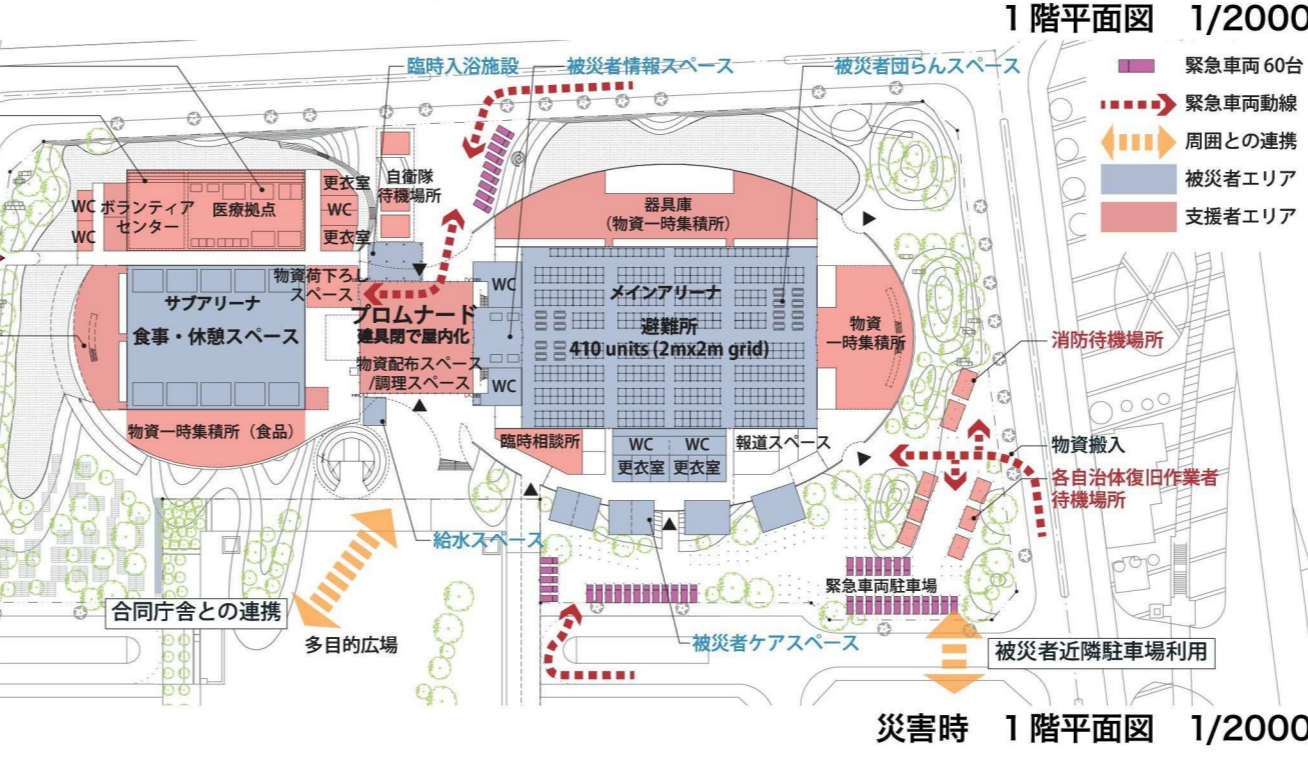
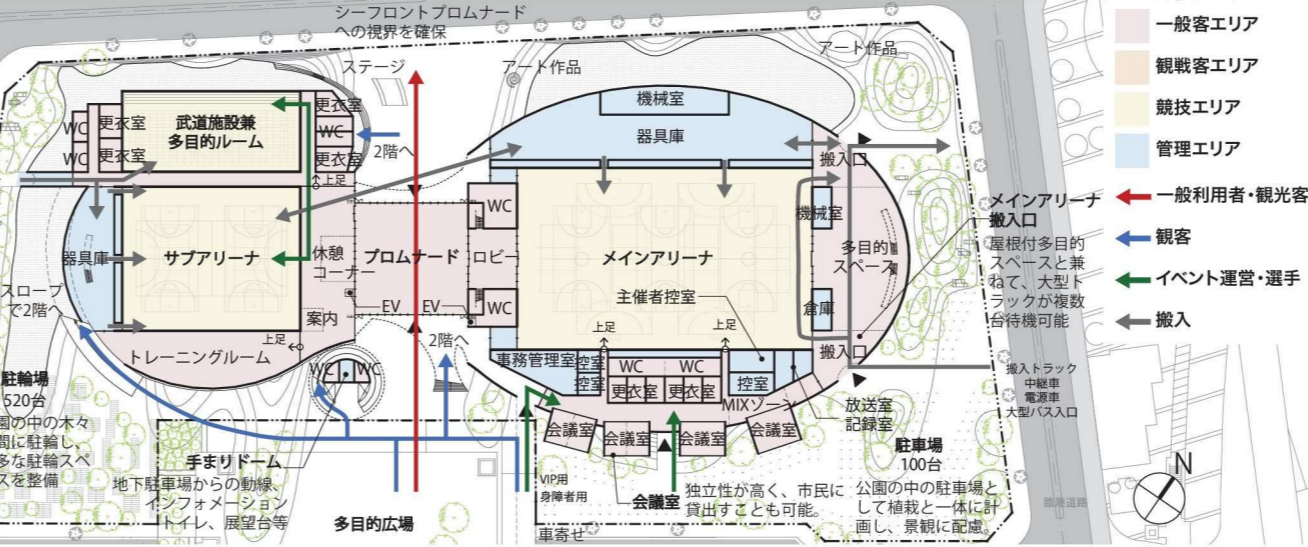
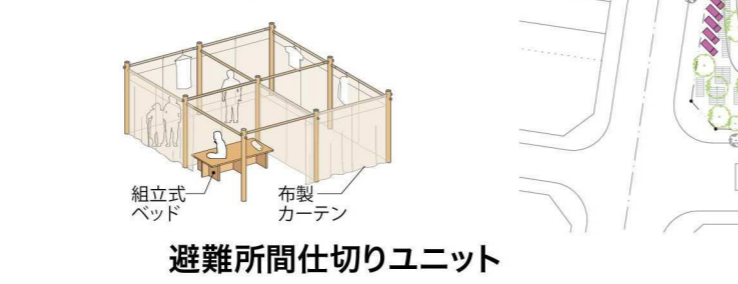
**瀬戸内を一望 夕日のみえるオープンロビー**  
展望テラスを設け、誰もが瀬戸内海への眺望を楽しめる場所を作ります。大階段は屋外ステージの観客席になり、花火大会時にも絶好の観覧席に利用可能です。



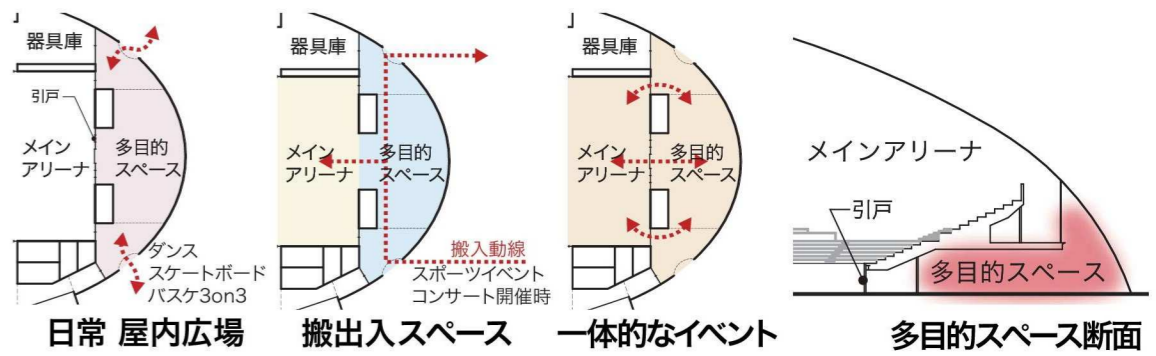
**日常的に市民が集う機能を点在**  
トレーニングルーム、レストラン、多目的スペースなど、アリーナ周囲は、一般の市民に開放される空間を設け、日常的に気軽に立ち寄れる施設とします。災害時に1階倉庫に備蓄された間仕切りユニットは日常的に貸出し、マルシェやイベントの展示ブースなど多目的に利用します。



**敷地全体が防災拠点化**  
災害時に、メインアリーナは避難所用間仕切りを使ったプライバシーのある一次避難所として、多目的スペースは物資配給スペース、サブアリーナは自衛隊や赤十字の活動スペース及び被災者の食事スペースとなり、防災拠点化ができます。また、膜屋根からの自然光によって、過ごしやすい避難所環境となります。

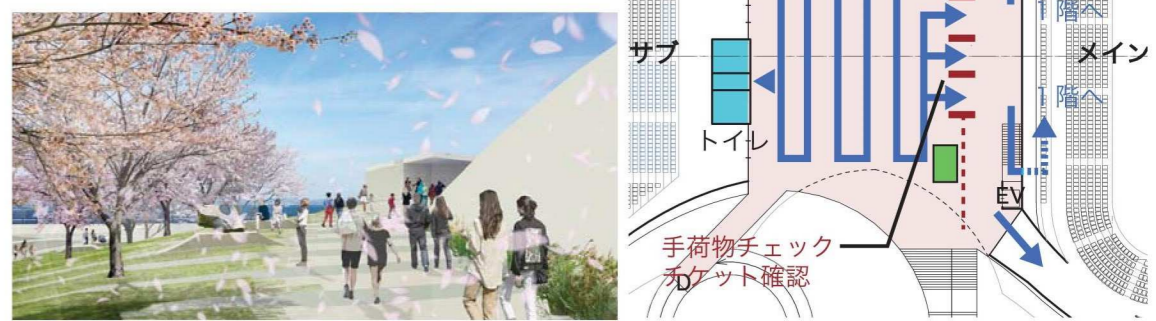


**さまざまな利用が可能な半屋外の多目的スペース**  
メインアリーナ東の搬入口は屋根付多目的スペースとして計画します。現在の大型テナント広場のように日常的に一般開放されます。引戸によりメインアリーナとの一体的な利用やイベント時のVIP駐車場や中継車設置場所など多目的に利用可能です。

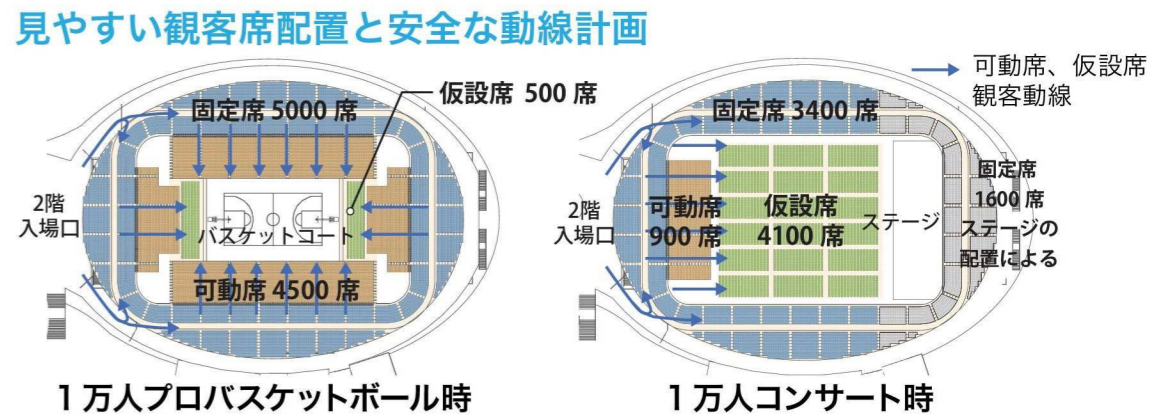
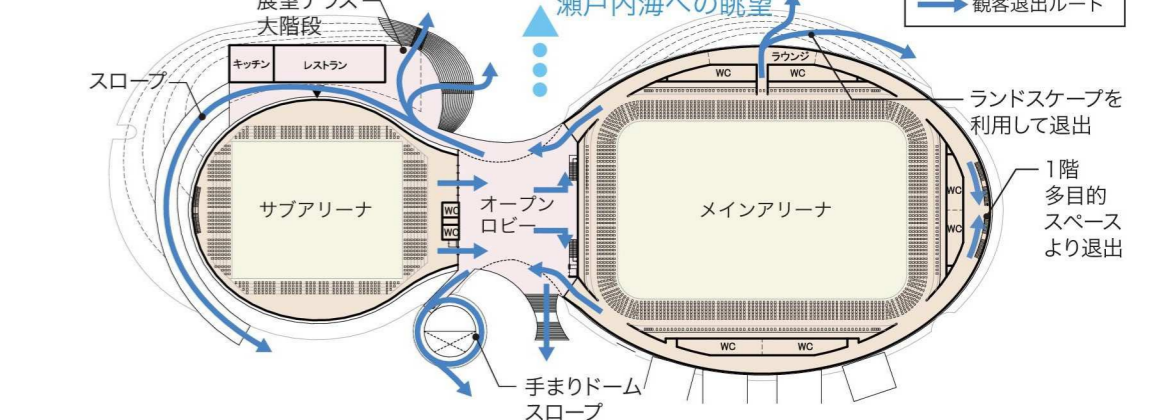


**フレキシブルな武道施設兼多目的ルーム**  
可動間仕切と個別の出入口を設け、独立した運用を可能とします。一部をアリーナ控室とすることもでき、アリーナとの連携を高めることが容易な自由度の高い構成とします。

**イベント入場は2階オープンロビーに一本化、警備とサービスを充実**  
2階オープンロビーの入場口まで大きなスロープで入場します。入場口前には広い滞留スペースがあり、スロープ空間も利用すると、5000人以上が滞留可能です。入場口にはトイレのほか仮設売店やキッチンカーなど、観客へのサービスを充実させイベントの賑わいを演出します。スロープは車の通行が可能のため、様々なサービスを容易にします。



**退出動線を分散しイベント終了時の混雑を解消**  
イベント終了時の退出を安全かつ混雑の緩和が可能な計画とします。建物周囲のマウンドやスロープを利用し、分散させ建物、敷地外へ導きます。終了後も瀬戸内の海辺を望むオープンロビーや、港方面、多目的広場など各々の時間を楽しめる施設とします。



**臨場感溢れる観客環境と様々な用途にしやすい可動席**  
アリーナを包み込むどこからも見やすい4面固定席で興奮や熱気の伝わる観客席とします。車いす席は前席の高さに配慮し、誰もが見やすい環境を確保します。可動観客席を設け、B.LEAGUEや様々な規模のイベントに応じて配置換えを可能とします。